

## 鬼首発電所で作業中、噴出により死傷！

— 建設業の作業員が犠牲に —

☆ 平成22年10月17日に発生した鬼首地熱発電所の噴出事故で、当時作業中だった作業員が死傷しました。

☆ 詳細は報道の通りです。行政当局の調査はまだ続いている模様でありその内容は不明ですが、業種は建設業で労災事故に該当するものと見られます。

この事故により県外業者（下請）の作業員（63歳、ボーリング工）が死亡し、地場業者（下請）の作業員（49歳、重機オペ）が負傷しました。

★ 本件で、今年の県内建設業死亡災害は、5名となりました。

■ 本件のような災害は一見、不可抗力的が感じますが、付近一帯は活発な火山地帯であることから、作業員が立ち入る際には、不意の噴出による熱傷や硫化水素による中毒などの災害を想定し、あらかじめ専門家の意見を聴く等により、対応策を検討しておくことが肝要です。

■ 地熱発電所関連の仕事に限らず、危険地域付近で作業をする場合もこうした危険に晒されることもあり得ますので、この地域で林道工事や治山治水工事などを行うときは十分留意が必要です。

河北新報 10月19日朝刊

## 大崎・鬼首

# 不明作業員遺体で発

## 噴出物激突？頭に

大崎市鳴子温泉鬼首荒雄岳の電源開発（Jパワー）鬼首地熱発電所の構内で17日、水蒸気や熱水を含んだ土砂が噴き上がり、大館市の民間ボーリング社員、伊藤邦昭さん（63）湯沢市皆瀬Ⅱが行方不明となり、1人が重傷を負った事故で、伊藤さんの遺体は噴出口から約100メートル離れた地点で、灰のような土砂に埋まっていた。伊藤さんは噴出口から約50メートル離れた地点で、蒸気や熱水に激突したと見られる。伊藤さんの遺体は噴出口から約100メートル離れた地点で、灰のような土砂に埋まっていた。伊藤さんは噴出口から約50メートル離れた地点で、蒸気や熱水に激突したと見られる。



伊藤さんの遺体が見つかった事故現場。地下からは水蒸気が噴き出す。

18日午前8時50分ごろ、大崎市鳴子温泉の鬼首地熱発電所



# 覓

## 痕跡

開し、午前11時15分  
鳴子署は19日に司法  
検証して安全管理に問  
(14面に関連記事)



事故では、  
口に石を入  
ていた大崎  
加藤重建社  
さん(48)は  
泉Ⅱが全身  
を負った。  
発電所によ

爆発的に水蒸気が噴出した  
大崎市の電源開発(Ｊパワー)  
鬼首地熱発電所の周辺は、水  
蒸気の噴出口が多い地域とし  
知られる。  
仙台管区気象台によると、  
一帯は過去の火山活動により  
形成された「鬼首カルデラ」  
と呼ばれる地形で、地下には  
マグマが残っているとみられ  
る。地下水がマグマに熱せら  
れて圧力が高まると、高温の  
水蒸気となって地表に噴出す  
る。

### 地下にマグマ「鬼首カルデラ」

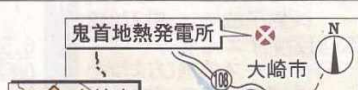
18日夜に記者会見した同発  
電所の佐々木正人所長は「発  
電所付近では日常的に直径数  
センチ程度の穴ができ、水蒸気

続きは次頁に

# 覓

## 痕跡

再開し、午前11時15分  
鳴子署は19日に司法  
検証して安全管理に問  
(14面に関連記事)



事故では、  
口に石を入  
ていた大崎  
加藤重建社  
さん(48)は  
泉Ⅱが全身  
を負った。  
発電所によ

爆発的に水蒸気が噴出した  
大崎市の電源開発(Ｊパワー)  
鬼首地熱発電所の周辺は、水  
蒸気の噴出口が多い地域とし  
知られる。  
仙台管区気象台によると、  
一帯は過去の火山活動により  
形成された「鬼首カルデラ」  
と呼ばれる地形で、地下には  
マグマが残っているとみられ  
る。地下水がマグマに熱せら  
れて圧力が高まると、高温の  
水蒸気となって地表に噴出す  
る。

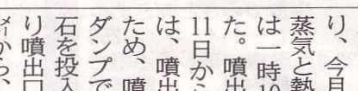
### 地下にマグマ「鬼首カルデラ」

## 噴出口多く存在

が噴出することは珍しくな  
い。数カ月から数年で弱まり、  
別の場所での新たな噴出が起き  
る」と説明。その上で「今回  
はけた違いの噴出。事前に想  
定することも難しかった」と  
強調した。  
同気象台の関根一男火山防  
災情報調整官は「水蒸気のは  
か火山ガスが発生したり、  
小石が飛んできたりする可  
能性もある。噴出口には近  
づかないでほしい」としてい  
る。

同発電所では2008年10  
月、有毒ガスが噴出し、作業  
員3人が軽傷を負う事故も起  
きている。

再開し、午前11時15分  
鳴子署は19日に司法  
検証して安全管理に問  
(14面に関連記事)



事故では、  
口に石を入  
ていた大崎  
加藤重建社  
さん(48)は  
泉Ⅱが全身  
を負った。  
発電所によ

当時、現場周辺では伊藤  
さんら4人が作業に当た  
っていた。硫化水素検知  
器と防毒マスクを使用し  
ていたが、作業服姿で、  
特に蒸気噴出への備えは  
していなかった。  
現場では9月上旬、熱  
水がわき出るようにな  
り、今月8日午前には水  
蒸気と熱水が噴出、高さ  
は一時10、20センチに達し  
た。噴出が収まっていた  
11日から17日にかけて  
は、噴出の勢いを弱める  
ため、噴出口付近に10ト  
ンダンブで約150台分の  
石を投入した。事故によ  
り噴出口の直径は15、20  
センチから、20、30センチに拡大

### 大崎・鬼首

# 地熱発電所で熱水噴

## 作業員1人不明 1人

17日午後3時35分ごろ、大崎市鳴子温泉鬼首  
荒雄岳の電源開発(Ｊパ  
ワー)鬼首地熱発電所の  
構内で水蒸気や高温の熱  
水が噴き上げ、作業をし  
ていた大館市の明間ボー  
リング社員、伊藤邦昭さ  
ん(63)湯沢市皆瀬Ⅱが  
行方不明となり、大崎市  
鳴子温泉の加藤重建社  
員、高橋安幸さん(48)は  
大崎市鳴子温泉Ⅱが全身  
やけどの重傷を負った。  
宮城県警鳴子署や発電  
所によると、事故当時、  
現場作業員3、4人が構  
内の水蒸気の噴出口をふ  
さぐ作業をしていた。高  
橋さんが重機で噴出口に  
石を入れ、伊藤さんは現  
場近くで別な作業をして  
いた。水蒸気や熱水の高温

発電所にはタービンを  
回すための蒸気を取る  
井戸が9本ある。8日の  
噴出後は安全確認のた  
め、噴出口のすぐ近く  
の1本を含む3本の使用  
を停止。17日の事故後は、  
もう1本の使用を止め  
た。  
地熱発電所の佐々木正  
人所長は「貴い人命が失  
われ痛恨の極みだ。一本  
人ご家族に申し訳ない」と話している。



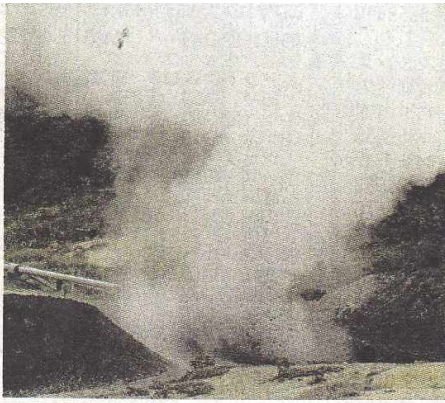
鬼首地熱発電所で8日



# 出

## 重傷

いっ  
署は、伊藤さんは



に発生した水蒸気と熱水の噴出

何らかの形で噴出に巻き込まれた可能性があるため、同日夜まで周辺を探索。18日も朝から一帯を中心に捜す方針。発電所によると、現場では8日午前、100度以上とみられる熱水が噴出し、高さは一時10〜20メートルに達した。同日午後には1、2メートルになり、その

後噴出が収まったため、11日から噴出の勢いを弱める作業を始めた。

発電所の佐々木正人所长は「もともと温泉の噴出が多い地域だが、こんな大規模なものは初めて」と話した。

鬼首地熱発電所は1975年に操業を開始し、最大出力は1万5000キロワット、敷地面積は14万平方メートルで、JR鳴子温泉駅から北に十数キロの山岳地帯にある。2008年10月には有毒ガスが噴出し、作業員3人が軽症を負う事故が起きている。